



令和3年度  
岡崎商工会議所青年部  
卒業生インタビュー  
株式会社DDR  
代表取締役

三河商人道  
MIKAWA SYOUNIN DO

PART  
227

## 【会社・仕事への思い】

# 安藤 竜二君

ロックンロールが好きでロックスターに憧れていた若かりし頃、音楽で食べていこうと上京しましたが、夢断たれアルバイトを転々とする日々が続いたそうです。22才で結婚し岡崎製材㈱に勤め、作業員をしていましたが大学卒の同年代には負けたくないと言葉を上げていきます。そこで輸入住宅を売ることで「物には人それぞれ違った価値観がある」という事に気づかれます。デザインを重視したライフスタイルショップが流行り出した頃、オリジナルの家具を作成し大手雑誌に掲載されるようになったそうです。そこでブランドの価値を上げてお客様に納得していただく買ってもらう事を学び、全国、海外にまで販路を広げていきます。その頃自分には出来ない、地方にあるいろいろな商品をプロデュースして売る手伝いをしたいと思い起業されました。今は地方の企業のブランディングに力を入れているのと勉強会をオンラインで行い、顧客のビジネスをアイデアと意識改革で成功へ導く事がやりがいのことでした。

### 青年部に入会 されたきっかけ



### 思い出に残る 青年部活動



岡崎に帰ってきた当初、人脈が無い中で経営をされていたのですが、地域ブランドをやるきっかけとなった大阪王将の文野さんに大岡屋の鈴木さんを紹介され、ともに地域ブランドを作成されます。その鈴木さんに服部良男さんを紹介され、地域の人と知り合うきっかけとなるので勧められ入会を決めたそうです。

入会まもなく台湾高雄へ行った事が思い出に残っているそうです。12月例会で当時会長だった磯部さんが、忙しいにしても関わらず話をさせていただけた事も良い思い出とおっしゃられていました。

### 趣味・休日の 過ごし方等

趣味はバイクとバンドだそうです。昔からロカビリー、ロックンロールが大好きでギターやボーカルをこなす安藤さんは、休日にバイクにまたがり蕎麦を食べに行ったりと息抜きをしているそうです。



青年部とは・・・

## 「地域との接点(繋がり)です」

後輩へのアドバイスとしては1200年前国が乱れていた時代、天台宗の開祖“最澄”は、日本国の宝は金銀財宝ではなく人間であると説き「一隅を照らす」という言葉を残します。みなさんもそれぞれの立場で照らす場所が違います。環境が違う事で役割がそれぞれある事を認識し活動して下されば良いと思います。

